

いつそクルマの外で 寝てみるは!? 『野宿野郎』編集長 かとうちあきさん



寝袋がなくとも大丈夫

——野宿歴十五年。日本全国を旅行しながら野宿した回数は七百泊以上になるそうですね。

はつきり数えてはいないのですが、そのくらいだと思います。

野宿初心者の方は、線路沿いに徒歩や自転車で行って、夜はだいたい駅舎で寝ていました。駅はトイレも水場もあるし、近くに商店があるので、わりと文化的な野宿ができます。

ちなみに現役の駅員さんから聞いたのですが、駅舎の旅をする人の年齢層が今ほとんど上がっていて、六十代や七十代の方

が増えていますね。

道の駅にもよく泊まります。車中泊で旅行している方もたくさん見かけますよ。道の駅と言っても、二十四時間入れたり、広々していたり、トイレしかなかったり、東屋があったり……いろいろです。道の駅の裏側に入ると、ひさしの下で寝るのも静かで好きです。

野宿は場所選びが肝心です。私は一人で行くときは全然人が来なくて誰にも見つからないところか、あるいは反対に地元の人目が届きやすいところを選びます。都会の大きな公園など人通りが多々でも、それが地元の人ではないかもしれないとこ

ろでの一人野宿は避けます。でも結局は運なのです。

トイレの問題ですが、高い確率で使わせてもらえるのがコンビニです。公園のトイレは夜間に施錠されることもあるので、寝る前に確認しておきたいですね。もしトイレが近くになくても、暗ければとりにあえずそのへんで用を足してしまえるから平気です。ただ、朝は困る。大自然の中ならいいですけど。

——野宿愛好者から見た野宿の定義とは？

微妙な部分なのですが、たぶん、テントなしでごろっと寝ること。ちなみにテントを張ると場所を占拠していると受け取られて違法性が増してしまうので、寝袋だけで寝ることにメリツトがあるんです。

そして、お金がかからないこと。それから、ここで寝ていいのかわからないところに状況判

断しながら寝るのが野宿かな、と私は思っています。でも人それぞれだと思うので、『野宿野郎』では「その人が野宿だと言えうならそれでいい」ということにしています。

装備は、寝袋と、下に敷いための銀マットがあればまず大丈夫。寝袋は値段も性能もさまざまですが、安いもので十分だと思います。底値はドン・キホーテで九百八十円くらいです。

余談ですが「歩ける寝袋」というものもあるんですよ。先が二股に分かれていて、寝袋に入っただけ移動ができる。暖かいので、寒い冬は部屋で着用すれば暖房節約にもなります。

あると便利なのは、両具、ヘッドランプ、長期の旅なら調理用ガスバーナー。防寒着や着替えは枕にもなります。職務質問を受けたときのために、身分証も持っているほうがいいです。

夏は蚊よけ対策が欠かせませんが、昔ながらの渦巻き蚊とり線香が効果絶大です。寝袋に入りながら上半身まですっぽり覆える一人用蚊帳もあります。風通しのいい場所や高さがある場所で寝るのも、蚊を避けるよい方法です。

新聞紙はスバラシイ野宿用具



イラスト・長野亮之介

きは、新聞紙と段ボールをコンビニで入手できれば即席野宿が可能です。

野宿ならまではの出会い

——野宿という選択肢があると行動の幅が広がりますね！
そうですね。お金がかから

ないことが一番大きいです。宿代が省けるぶん長く旅行できますし。ある旅行者の方は、野宿して浮かせたお金をその土地の飲み屋で使って、酔っぱらったら公園で寝ると話していました。完全な節約じゃなくて、好きなことに使うために宿代を減らすそうです。

野宿は省エネなうえに出会いのきっかけも増やしてくれます。寝場所について「ここは大丈夫でしょうか？」と地元の方に尋ねたりして、コミュニケーションをとれるのもとても楽しい。「何してるのー？」と子供から面白がって話しかけられることも多いんですよ。

旅館に泊まると、お客さんともてなす側の関係にかなりませんが、野宿はこちらのほうが「す、すみません」という立場なので地域に溶け込みやすいと思います。一度寝た場所には愛